

福島浜通りから挑戦する 東北の創造的復興！

山崎 光悦

Yamazaki Koetsu

(福島国際研究教育機構 (F-REI) 理事長)



福島国際研究教育機構 (F-REI) は、東日本大震災と原子力災害の複合災害に見舞われた福島県浜通りの創造的復興のシンボルを目指して、2023年4月福島県浪江町に国が設置した特殊法人です。設立以来、地域が抱える様々な課題に向き合いながら、その先の未来を切り拓くため、全方位的な取組みを進めています。

F-REIの研究は、「ロボット」、「農林水産業」、「エネルギー」、「放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用」、「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信」の5つの研究分野を柱としています。各研究分野が独立して研究を進めるだけでなく、それぞれの専門性を生かしつつ、分野の枠を越えた異分野融合研究によって、福島をはじめ東北の創造的復興を目指し、F-REIならではの研究成果が創出されるよう取り組んでいます。

ロボット分野では、これからまだ歳月を要する福島第一原子力発電所の廃炉も視野に、耐放射線をはじめ過酷環境下でも機動性を発揮するロボットや水中ドローンの研究開発が進められています。また放射線科学・創薬医療分野では、放射線の医療、農業・工業利用を念頭に、医療分野では短寿命の放射性同位体(RI)による診断・治療研究、農業分野では食料生産と密接に関連する植物栄養学に革新をもたらす植物 RI イメージング研究、工業分野では様々な利活用を支える放射線検出器・イメージング技術の開発に取り組んでいます。更に原子力災害におけるデータや知見の収集・発信に関する研究分野では、原子力発電所事故によって環境中に放出された放射性セシウムの動きを把握・未来を予測する環境動態研究や、複合災害から復興への過程を体系化し、得られた知見を国内外の防災・減災に生かす原子力災害医科学研究等を通して、浜通りのレジリエントな街づくり・地域づくりに役立てる研究も推進しております。

F-REIの研究の大きな特徴は、「出口を見据えた研究」(実証と社会実装)を重視している点にあります。学術的な知見を積み重ねるだけでなく、その成果を地域や社会に活かし、実際の暮らしの中で役立ててゆくことを大切にしています。福島という場所だからこそ直面する課題と向き合い、世界でここにしかない多様な研究を通じて、社会実装の場をつくり、世界へと発信していくことが我々の使命です。

設立当初は1つだった研究グループは、この2年半で15グループにまで拡大し、2030年度までに50程度の研究グループ体制の構築を目指しています。「F-REIは面白いな」と共感してくれる仲間を国内外から迎え入れ、世界トップ水準の研究開発に取り組んでいきます。あわせて、現在JR常磐線浪江駅の西側に17haの用地を確保し、新たな拠点施設の整備も進めており、そこは単なる研究施設にとどまらず、地域の方々と共に生き、共に発展していく場、開かれたキャンパスとなることを目指しています。

F-REIは、「創造的復興の中核拠点」として、福島の浜通り地域を変革と希望に満ちた地へと発展させたいと考えています。復興という言葉を一歩先へと進め、研究が地域の暮らしに根ざし、人々の生活に貢献していくこと、福島が憧れの地として語られるような未来を、研究の力で支えていきたいと考えています。福島から始まる私たちの挑戦が、やがて世界の未来を形づくっていく力となることを信じ、その思いを胸に地域に根ざし、世界に開かれた新たな拠点形成に、これからも歩みを進めてまいります。

プロフィールは32ページへ